

今こそ心にきざみたい！
文芸ロマンの香りゆたかな感動——

ソビエト 名作映画祭

提供・ソビエト映画公団
主催・ソビエト名作映画祭実行委員会
配給・東映洋画 



10月29日(土) → 11月25日(金) 特別ロードショー

渋谷・東急文化会館地階 東急レックス (407) 7019	池袋駅東口前 池袋東急 (971) 2727	新橋駅・銀座口下車新橋センター前 銀座東急 (571) 3411	伊勢丹斜め前 新宿東映パラス (351) 3061
-------------------------------------	------------------------------	--	---------------------------------

10月29日(土) 11月4日(金)

《カラー作品》

アンナ・カレーニナ

監督アレクサンドル・ザルヒ原作レフ・トルストイ主演タチアナ・サモイロワ/ワシリー・ラノウオイ

《カラー作品》

白鳥の湖

監督ジェー・トゥルビエワ 主演マイヤ・プリセツカヤ/エヌ・ファデーチェフ

11月5日(土) 11月11日(金)

人間の運命

監督セルゲイ・ボンダルチュク 主演セルゲイ・ボンダルチュク/ジナイダ・キリエンコ

《カラー作品》

朝やけから朝やけまで

監督ガヴリール・エギアザロ 主演ニコライ・バストゥーホフ/リュボフィ・ソコロワ

11月12日(土) 11月18日(金)

《カラー作品》

カラマーゾフの兄弟

監督イワン・プイリエフ原作ドストエフスキー主演ミハイル・ウリヤノフ/アンドレイ・ミャコフ

《記録映画》

ペテルブルグの ドストエフスキー

監督B.シュレイベル

11月19日(土) 11月25日(金)

《カラー作品》

シベリヤ物語

監督イワン・プイリエフ 主演ウラジミール・ドルージニコフ/マリア・ラドイナ

《カラー作品》

ルスランとリュドミーラ

監督アレクサンドル・プトウシコ原作アレクサンドル・プーシキン主演ワレリー・コージネツ/ナターリヤ・ベトロワ

10月29日(土)〜11月4日(金)

■アンナ・カレーニナ



カラー作品
監督 アレクサンドル・ザルヒ
原作 レフ・トルストイ
主演 タチアナ・サモイロワ
ワシリイ・ランウオイ

世界文学史上、最高の愛の名作として知られ、「戦争と平和」「復活」と並ぶ文豪トルストイの三大傑作のひとつとして絶賛される「アンナ・カレーニナ」の完全映画化作品。ソ連モスクワフィルムが総力を挙げて製作した壮麗な愛の悲劇、カラー超大作である。十九世紀後半のロシア社会を背景に、美しい人妻アンナと、若い士官ワロンスキーの道ならぬ恋を描いて、世界中から賞賛されたこの長編ロマンは、トルストイ原作の最も忠実な映画化として、望み得る最高のスケールと内容をもたえた作品。

ペテルブルグ政界の冷徹な高官ワロンスキーの妻アンナが、駅で見かけた美男の青年将校ワロンスキーに強く惹かれ、やがて激しく燃えあがった恋が、社交会の噂になり、一人息子と引き離された上、遂には感情的な衝突から、愛が憎しみに変わって、悲劇のラストを迎える。こうしたストーリーが、完璧な時代再現による華麗かつきびしいリアリズム描写まで進展、恋愛映画のジャンルに不滅の金字塔を打ち立てた。

この長編ロマンを華々しく飾る演技陣は、主演にソビエト映画界きっての国際スターとして知られる名女優タチアナ・サモイロワ。夫ワロンスキーの倦怠にみちた生活を逃れ、激しく真実の愛をつらぬくヒロインのアンナ役をめぐりに演じきつて、さらにその名声と実力を確かなものにしていく。そのアンナにいちずな恋をよせる青年士官ワロンスキーには、「戦争と平和」にも出演したワシリイ・ランボイ。またワロンスキーを慕う可憐な娘キティには、「ハムレット」のアナスタシア・ベルチンスカヤ、キティの姉ドリーを、「小犬を連れた貴婦人」のイーヤ・サビーナ。それにアンナの夫ワロンスキーには、ベテランのニコライ・グリシェンコが扮して、冷徹な官僚政治家を好演。加えて今世紀最高のブリマとして名高いボリス・バレーエのマイヤ・プリセツカヤが特別出演し、名演技を見せるなど文字通り豪華な顔ぶれである。

なお製作スタッフ陣は、戦前からキメの細かい演出と心理描写の優秀さで定評のあるアレクサンドル・ザルヒが監督と脚本を担当、単なる大作文学のダイジェストに終らせず、内容の濃い人間ドラマの構築に成功した。ほかに撮影がレオニード・カラシニコフ。音楽はロジオン・シチエドリが担当、ロシア的な優雅な旋律が印象的である。

■白鳥の湖



カラー作品
監督 ジェー・トゥルビエワ
主演 マイヤ・プリセツカヤ
エヌ・ファデーチエフ

ソビエトが世界に誇る今世紀最高のブリマ・バレリーナとして、あまりにも有名なボリス・バレーエのマイヤ・プリセツカヤが、華麗に舞う「白鳥の湖」。映画はボリス・バレーエのステージにはじまり、スタジオ撮影をも含めて、チャイコフスキーの名バレエを充分にたんのうさせる、ファン必見の名品。クラシック・バレエならではの永遠に忘れることができないほどの美しさと感動にみちあふれている。

11月5日(土)〜11月11日(金)

■人間の運命



監督 セルゲイ・ボンダルチュク
主演 セルゲイ・ボンダルチュク
ジナイダ・キリエンコ

大河小説「静かなるドン」の偉才ミハイル・ショロフが書いた同名の傑作短篇を名優セルゲイ・ボンダルチュクが初めて監督、主演したダイナミックな感動巨篇。第二次世界大戦で独ソ戦に参加し、やがてドイツの捕虜になった一兵士ソコロフは2年に及ぶ苦難の収容所生活の果て脱走しようやく祖国の村に帰って来たが、家族は全員、戦争のために死亡。戦争は終わったものの、ひとりぼっちになってソコロフは生きる力さえ失った。そうしたソコロフの前に現れた幼い戦災孤児ワニヤ。やがてソコロフは、ワニヤを新しい息子として再び力強く大地に生きようとする。

戦争の悲惨に真向から立ち向って行くこの作品は、セルゲイ・ユトケヴィチ監督の「オセロ」(カンヌ映画祭グランプリ)の主役を演じて、国際的な名声を博したセルゲイ・ボンダルチュクの監督デビュー作。その力量は、モスクワ映画祭グランプリ受賞となって証明され、やがては未曾有の超大作「戦争と平和」の製作、監督、主演に取組んで、いよいよ本領を発揮することになった。

戦争によって変転する人間の運命を追って、堂々と展開するドラマのなかに、祖国と大地への限らない愛、ソビエト兵士の勇氣、悲愴と闘うヒューマン精神をしっかりと描き込んで、世界の人々を深い感動に誘った一篇。力強い叙事的な作風に、ボンダルチュク独自の新鮮な映画表現が印象的。

■朝やけから朝やけまで



カラー作品
監督 ガヴリル・エギアザロフ
主演 ニコライ・バストゥク
リョボフ・ニコロフ

ウラル地方で働くコルホーズの機械技師フョードルの或る一日(朝やけから朝やけまで)を描いて、ひとりの市民の戦後30年にわたる生活の軌跡を浮かびあがらせた現代ソビエト珠玉の名篇。日本初公開。フョードル一家は、人も羨むほどの仲むつまじい一家。妻も娘たちもみな働き者だ。ところがフョードルには人知れぬ心配事がある。いろいろある。妹娘ワリヤの恋人が、どこか当世風というが軽薄で気になるし、姉娘のナージャは夫と別れ、幼な息子を置いてまた村から出てしまった。それに戦争で受けた傷跡がよく疼く。そんな折フョードルは、かつて従軍していた連隊の仲間が集まるという報せを受け、会合場所へ急いだ。着いたのが遅く戦友たちはもうそこに居なかった。仕方なくこの町のレストランに入ると、昔兵士だった守衛と知り合ってつい長話。フョードルは親友の機関銃手ワルターノフへの想いをこめて、中年のピアニスに死者を悼む歌をリクエスト。やがて外へ出てと戦友たちと夢のような偶然の再会。そして夏の早い朝が明けようとする頃、フョードルは、娘ナージャを伴って、帰路につく。

監督ガヴリル・エギアザロフは、「主人公フョードルのような平凡な人々を、地の塩」と呼ぶのだから、この世代が現代社会にあっても、精神的には決して老いていないことを語りたかった。」とその意欲を力強く表明している。

11月12日(土)〜11月18日(金)

■カラマーゾフの兄弟



カラー作品
監督 イワン・プイリエフ
原作 ドストエフスキー
主演 ミハイル・ウヤノフ
アンドレイ・ミヤコフ

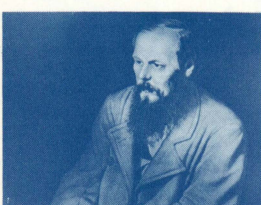
文豪ドストエフスキー最大の長篇小説として、あまりにも有名な最高傑作の完全映画化作品である。世界文学史上、これこそ並ぶものなき文学の頂点といわれて90年、激しい愛と真実を極限まで描いた人間ドラマであるこの大ロマンは、国をこえ、時代をこえて、世界中の人々の心にはかり知れないほど大きな影響を与えてきた。それだけに早くから劇化、あるいは映画化が幾度びとなく試みられてきたが、この作品こそ「復活」「戦争と平和」「アンナ・カレーニナ」と、トルストイ文学の映画化に成功を収めたソビエト映画界が、文字通り総力を結集してつくりあげたドストエフスキー文学初の本格的映画化作品と言える。

物欲と淫蕩の塊りフョードルを父に持つたカラマーゾフ家の三人兄弟。野性的な情熱家の長男ドミトリ、無神論者で虚無的な知識人の次男イワン、純真な三男のアリョーシヤ、それに父が白痴の女に生ませた異母兄弟スメルジャコフを中心人物に物語が展開、そこに父と子、兄と弟の愛と欲の葛藤を描き、おぞましい父殺しの心理やその思想的背景を鋭く追求、激烈なドラマ感とドラマがまさに煮えたぎり、壮大にして深遠なテーマが全篇を鋭くつらぬいていく。

映画化にあたって特に厳選されたスタッフは、脚本と監督にドストエフスキー研究者として知られる「ソ連邦人民芸術家」のイワン・プイリエフが挑み、「白夜」「白痴」に続いて、堂々たる成果をあげ、文豪の思想をみることに映像化している。

多彩な演技陣はソビエト映画・演劇界総出演といつた大スケールの圧巻を呈し、まさしくダイナミックで激烈な演技の応酬。激情の性格ゆえに苦悩する長男ドミトリには、レーニン賞受賞の名優ミハイル・ウリヤノフ、冷徹な頭脳で神を糾弾する次男イワンに、「怒りと響きの戦場」のチリール・ラバロフ、清純な魂の持主である三男アリョーシヤに、新進アンデレイ・ミヤコフがそれぞれ演技、またドミトリとの純愛に生きる情熱的なグルシェンカル、監督夫人リョナ・プイリエフ、誇り高い中佐令嬢カテリーナに、美人女優スベトラナ・コロコシド、兄弟の父フョードルには、ベテランのマルク・ブルードキンが扮して、壮大なドラマをくりひろげている。第一部、二部あわせて堂々3時間30分の稀れに見る超大作である。

■ペテルブルグのドストエフスキー



記録映画
監督 B・シュレイベル

ひとりの作家の文学を語るうえで、その土地や町は切りはなすことのできない重要なファクターである。映画はペテルブルグの町を多く書き残したドストエフスキーの諸作品を追いながら、作家と町の深い結びつきを物語っている。壮麗で華麗なプーシキンのペテルブルグ観に対し、このペテルブルグを「病める町」として見つけたドストエフスキー。その作品背景がここに現実に浮彫りにされた。

11月19日(土)〜11月25日(金)

■シベリヤ物語



カラー作品
監督 イワン・プイリエフ
主演 ウラジミール・ジニコフ
マリア・ラドニナ

戦争で負傷した青年ピアニストが、失態と絶望から立ち上って、シベリア建設に生きる労働者たちの逞しい歌声のなかから、再生のチャンスをつかみ、作曲家としてカムバックするまでを力強い素朴なタッチで謳いあげた感動の音楽映画。大衆と共にこの歌、歌うことで、自らの芸術をつらぬく青年の姿を、雄大なシベリアの自然と、そこに訪れた新しい時代の息吹きのなかに描いた忘れ得ぬ一篇である。

当時、ソビエトはナチ・ファシストとの戦いに勝利して、社会主義の未来に確信を深め、解放のよろこびの中で、建設と復興の気運に満ち満ちていたが、この映画はそうした時代の記念碑的な作品。全篇を通じて、「バイカル湖のほとり」「シベリアの大地」「流刑人のうた」「チャストウシヤ」「シベリア讃歌」など9曲が歌われて、そのダイナミックな歌声は、壮大な自然美とよくマッチして、みごとな盛り上がりを見せていく。

監督はソ連人民芸術家イワン・プイリエフが担当、のちにドストエフスキー文学の深い人間洞察に傾倒し、「白夜」「白痴」「カラマーゾフの兄弟」の映画化に挑んで、素晴らしい才能を発揮した人。

出演者は、主人公の音楽家アンデレイに、ウラジミール・ドルジニコフ。デビュー作「罪なき罪人」から「石の花」を経て、チェーホフ原作の「浮気な女」「決闘」「三人姉妹」などに出演。戦後の代表的な人気俳優のひとり。またアンデレイの恋人マリアには、当時プイリエフ夫人でもあったマリア・ラドニナが扮し、豊かな才能を見せている。

音楽は現代ソビエトの代表的作曲家であるニコライ・クリューコフ、この映画の主題歌として作曲した「シベリア大地の歌」は、いまだに人々の間で広く歌われている。1948年、日本公開でソビエト映画初の大ヒットを放った名篇である。

■ルシアン・コンティニ



カラー作品
監督 アレクサンドル・ウツシコ
原作 アレクサンドル・ウツシコ
主演 フレドリック・ジョネツ
ナタリーヤ・ベトローワ

ロシアの代表的な国民詩人アレクサンドル・プーシキンの愛と英雄の叙事詩を、名匠アレクサンドル・ウツシコ監督が映画化した夢とファンタジーのメルヘン・ドラマ。

物語りは、古代キエフ公国の全盛時代、愛するリユドミラを、魔王チェルノモールにさらわれた若いルシアン公が、三人の騎士を伴って、遂にはリユドミラを捜し出すまでの波乱に満ちた冒険を追ってくりひろげられる。勇敢で誠実な騎士ルシアンはやがて、キエフを包囲していたペチエネグ人の大軍を打ち敗って、キエフ公国とリユドミラを自分の手にする。

全篇に亘って謳いあげられる愛国のテーマと勇気ある善の力、そして何よりも胸を打つ愛のうた。プーシキン独特の魔法の世界を、美しく楽しく再現した映画ならではのダイナミズム、はるか遠い日のロマンが幻想美ゆたかにくりひろげられる感動巨篇である。